

(開催報告)

日本側から、ミャンマーで一般的な鉄筋コンクリート造のフレーム内にレンガ壁を施工した構造について、現地調査、材料試験などを踏まえ、現地の技術者が活用しやすいよう現地で一般的に使用されている構造計算ソフトを活用しつつ日本の診断方法を融合した新しい耐震診断方法を提案しました。また、現地において廉価で適用可能な耐震改修方法として既存のレンガ壁を活用した補強工法を提案しました。

ミャンマー側からは、ヤンゴン市内の既存建築物の状況や建物データの収集活動についての発表がありました。

セミナーには、ミャンマー側から官庁や大学から 33 名、民間などから 126 名、日本側から 19 名の参加（合計 178 名）があり、日本側から提案した耐震診断方法や補強方法などに高い関心が寄せられました。

その後行われたパネルディスカッションでは、実態を把握することの重要性や、現地に見合った方策検討及びミャンマーの特徴を踏まえた現地での実証実験の必要性などについて議論がなされるとともに、今後の技術普及や技術者の教育の重要性についても意見交換が行われました。



(セミナーの様子)



(パネルディスカッションの様子)